

高取小だより

令和5年9月11日



# 三本桜

第19号

ふかく考える子    あたたかみのある子    がんばりのきく子  
9月の目標：伝わるあいさつをしよう

## チャレンジ夏休み発表会をきっかけにして

夏休みに実施したチャレンジ夏休みの発表会を各学級で行いました。子どもたち一人一人が、自分が取り組んだことについて丁寧に説明し、それを聞いた人が質問や感想を述べていました。どのテーマもとても興味深く一生懸命チャレンジした様子が伝わるものでした。

さて、2016年度ノーベル生理学・医学賞受賞者の大隅良典さんは、小学生の頃に兄からある本を贈られたことをきっかけに、また、2019年度ノーベル化学賞受賞者の吉野彰さんは小学校4年のときに当時の担任の先生からある本を薦められたこときっかけに、学者を目指したり研究への目を開かせるきっかけになったといいます。

そのある本とは、イギリスの科学者マイケル・ファラデーの『ロウソクの科学』です。ファラデーが1本のロウソクを用いて科学と自然、人間との深い交わりを伝えてくれます。子どもたちへの慈愛に満ちた語りと鮮やかな実験の数々は、科学の面白さ、そして人類の未来をも照らし出しています。時を超えて読者の胸を打つ名著です。

二人のノーベル賞受賞者のように、子どもたちがチャレンジ夏休み発表会をきっかけにして、人生の羅針盤を見つけ出してくれればこんなうれしいことはありません。



【1年生】



【2年生】



【3年生】



【4年生】



【5年生】



【6年生】

## 大学に恐竜学部！？

夏休みには、全国各地で大規模な恐竜イベントが開かれました。今年も、おかげで世界子ども美術博物館で「あそべる恐竜博」、大阪市立自然史博物館で「恐竜博2023」などが親子連れでにぎわったようです。

そんな恐竜ファンに、うれしいニュースです。2025年福井県立大学に、「恐竜学部」（仮称）が誕生します。本格的に恐竜学や古生物学、地質・古気候学などを学ぶことができる全国初の専門学部となります。

福井県は、「恐竜王国」として知られます。日本の恐竜化石の約8割は、同県内で発見されています。JR福井駅の西口には「恐竜広場」があり、実物大に再現された巨大恐竜のモニュメントが観光客を出迎えてくれます。2000年には、同県の勝山市に、日本初の本格的な恐竜博物館がオープンしています。

「恐竜学部」は、この博物館に隣接した場所に新設される予定です。入学定員は30人。恐竜・地質学科に、恐竜・古生物コースと地質・古環境コースを設ける予定です。校舎から車で15分ほどのところには、日本有数の恐竜発掘現場があります。これまでに多くの恐竜化石が見つかっています。そこで学生は化石の発掘作業などを体験します。「教室」と「現場」が極めて近く、恐竜博物館と隣接しているので、さまざまな形で連携される予定です。施設や研究機器の相互利用、研究員による授業などのほか、VR（仮想現実）など先端技術を駆使したデジタル古生物学研究にも力を入れるそうです。

高取っ子の中にも恐竜好きの子が多くいます。恐竜学部は日本発でまだ未知の部分も多いですが、古代の恐竜について知ることができるだけでなく、気候、地質といった地球環境全体を学び、大きな問題となっている地球温暖化などの環境問題においても非常に重要な役割を果たす人材を育て、卒業後は研究者や学芸員の他にも、デジタル関連分野（IT関連産業、土質力学・道路測量に関する地質系のデジタル関連産業）、観光関連分野（ジオパークなど自然関連の観光業、出版業、報道関係）、地質関連分野（地質・土木・建築系コンサルタント、土木系公務員、ゼネコンなど建設産業）といった幅広い職種への就職を想定しています。

進路選択については、「自分に合っていること、やりたいことを見付ける」「社会に出て、自分の能力を生かせる分野を見付ける」ことを優先したいです。そのためにも、自分の個性を知り、自分で進路を選択する姿勢を育むためには、日々の生活で、自分で決めたり考えて行動したりする経験を積み「自分はできる」という自己肯定感を育むことです。この機会に、お子さんと進路について話し合ってもらえると幸いです。

